

## 岡部定一郎「福岡城寸描」(33)

### 黒田24騎小傳(6)

#### 栗山 利安 (備後)

生没年 : 1551年～1631年  
位置付 : 大譜代 (八虎の一人)  
禄 高 : 1万5千石  
別 名 : 善助、四郎右衛門、卜庵

その昔は、代々赤松家に仕え、赤松と称していたが、足利尊氏から姫路の近くにある栗山の郷を賜り、以来栗山と称するようになる。利安 15歳の時、黒田官兵衛 (後の如水) に仕え、官兵衛より利安を改め善助の名前を頂く。

1578年、信長に反逆して有岡城に籠城した荒木村重を説得に出向いた官兵衛は、そのまま土牢に幽閉されてしまう。1年後、有岡城が落城した時、官兵衛を救出したのは、利安と母里太兵衛であった。正直者の上に武運に強く、数多い戦いに加増を重ね、豊前中津にいた時は、6千石の大身となっていた。

秀吉死後の1599年、徳川家康が会津攻めに関東に下った時、長政も同行した。その隙に大阪城に入城した石田三成は、大名の妻を城内に移そうとした。官兵衛の妻と長政の妻を大阪屋敷から中津に逃がしたのも、利安と母里太兵衛である。

筑前入国後は、1万5千石を拝領し、上座郡左右良城 (今の原鶴温泉の東北に面した処) の城代となる。後に息子の栗山大膳は、実直な家付家老となり、あの有名な「黒田騒動」の立役者として、江戸表の評定所での裁判で、黒田家を救い、その名をあげた。

その後、奥州盛岡南部藩に預けられる。子孫は内山姓を名乗り、明治に至っている。



家 紋



丸に三柏

栗山利安の博多人形(ふくおかフィナンシャルグループ1階に展示)